

## 令和 5 年度事業報告書

令和 5 年度の当センターは、新型コロナウイルス感染症の 5 類移行に伴い、通常の事業活動に徐々にシフトしていった中、前年度と比べ契約額、会員数ともに微増の結果となりました。

まず、契約額について、「請負・委任」「派遣」事業の合計値で、前年度比 2.7%増の 9 億 5,703 万円となりました。内訳は、「請負・委任」事業が前年度比 1.6%増の 8 億 8,045 万円で、前年度に対し選挙関連や全戸配布等の大型業務の受託が少なかったこと等のマイナス要因がありましたが、一方で町田市からの清掃業務の新規受託や、リサイクル事業のネット活用による売上げ増等があり、契約額が増加となりました。また「派遣」事業については、民間事業所や保育関連業務等の人手不足分野に対する積極的な就業開拓を行い、契約額が前年度比 17.8%増、過去最高の 7,658 万円となりました。

次に会員数ですが、前年度比 15 名増の 2,758 名（男性 1,838 名、女性 920 名）となりました。チラシ配布やポスター掲示、地域情報誌の掲載等の会員拡大策を行った他、SDGs 活動の一環として、健康体操並びに盆踊りチーム等の健康や仲間づくりによる退会抑制事業を実施しました。また入会説明会については、高齢者の雇用・労働環境の変化による参加者数の伸び悩みが懸念される中、職種限定の出張説明会並びに女性向け説明会の実施や、オンライン視聴を積極的に推進しました。

安全・適正就業等については、残念ながら会員の自動車運転の誤操作による会員の死亡事故が発生した他、刈払機の飛び石事故等による賠償事故が多発し、事故件数が前年度比 6 件増の 35 件となりました。また管理系職種の長期就業是正に向けたエントリー制度を実施し、適正就業の推進を図りました。更に、地域連絡会等の地域班活動が再開し、社会奉仕活動についても、全市的に展開した「市内一斉美化清掃」に過去最高の 306 名が参加する等、昨年を上回る延 1,570 名が活動を行いました。

一方、組織的な面としては、令和 6 年秋に施行予定の「特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律（フリーランス法）」の対応に向け、センターから会員への情報伝達ツール「Smile to Smile（通称：スマスマ）」の普及拡大を図った他、センターのデジタル化をより推進していくため、新年度に向けて「デジタル化推進委員会」立上げの準備をしました。更に、このフリーランス法の趣旨に則り、会員が安心して、安定的に就業出来るよう、本来の発注者と会員の関係を明確化する「新たな契約形態（包括的な契約関係）」の実施に向けて、検討を始めました。尚、この契約形態は副次的効果として、インボイス制度におけるセンターの財政負担を、大幅に軽減できることが期待されています。

さて本年度が最終となった「第六次中期計画」ですが、各実施項目については概ね実行してまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、事業実績の目標値達成には及びませんでした。それらの振り返りを含め、6月に改選された役員を中心に「第七次中期計画」の策定に着手し、1月末に成案を得ました。尚、キャッチフレーズは“いきいき わくわく 地域のシルバー”としました。

以上、アフターコロナにおいても、依然として厳しい状況下ではありますが、地域に根差した事業を行う公益法人として今日まで活動が出来たことは、町田市を始めとする行政並びに上部団体のご支援とご協力、市民の皆様のシルバーへの深いご理解とご協力、そして会員の皆様の真摯な活動の賜ものであると、ここに改めて感謝申し上げる次第です。

項目別事業報告は、以下のとおりです。

## 1. 広報・周知活動

- (1) 全会員に対して、会報「銀齢だより」を6回配付し、センターの動向や会員活動等の情報共有を図りました。また地域班長向けには、毎月「センター短信」を発行しました。
- (2) パンフレット、ポスターについて、各施設への配架や町内会・自治会掲示板にポスター掲示(3回)を行いました。また家庭を中心にチラシ配布並びに新聞折込み(2回)を行いました。更に、より詳細な情報を提供するためにホームページの充実を図りました。
- (3) 地域情報誌等への掲載は、市の協力により「広報まちだ」(3回)、「タウンニュース」(6回)に掲載した他、「コンサートガイドまちだ」とのバーター掲載(6回)を行いました。また地域の市民センター(6ヶ所)に設置している町田市政情報「まちビジョン」で、デジタルサイネージCM放映を行いました。
- (4) イベントについては、主催事業である「シルバー交流まつり」(来場者・参加者計236名)を開催した他、共催事業として「シルバー展」(来場者169名)や、市内の各種イベント(「まちカフェ!」「南地区福祉フェア」「成瀬コミュニティセンターまつり」「鶴川地区協議会ハッピーフライデー」等)に参加をしました。また、指定管理者事業として、「わくわくプラザ町田作品展」(来場者231名)を開催し、一環の事業として小学生向けイベント「わくわくプラザ町田であそぼう」を実施しました。更に、(一社)町田市文化協会の協力を得て、「町田市民文化祭」で特別コーナーを設置した他、(一財)町田市文化・国際交流財団の協力により、コン

サート開催時におけるチラシの配布を行いました。また東京都主催のイベント協力として、「シニアしごと EXPO」においてボール体操を行いました。

- (5) 市民への PR を図るため、屋外作業班を中心にビブスの貸与を行いました。
- (6) センターの認知度向上を図るため、わくわくプラザ町田に設置した「きんじょの本棚“銀の架け橋（昭和⇄未来）店”」は、延べ 300 冊あまりの本が貸し出されました。
- (7) 役員・班長宅を中心に「シルバー連絡所」看板を設置（45ヶ所）しました。
- (8) ハローワークの「シニア職業ガイダンス」において、入会案内（計 23 回）を行いました。

## 2. 就業拡大・適正就業

契約額の内訳は、以下のとおりです。

### 契約額

事業区分	令和 5 年度	令和 4 年度	増減	比率
請負・委任	880,449,880 円	866,644,324 円	13,805,556 円	1.6%
労働者派遣	76,578,389 円	64,998,052 円	11,580,337 円	17.8%
合 計	957,028,269 円	931,642,376 円	25,385,893 円	2.7%

### 請負・委任事業内訳

事業区分	受託件数	実人員	延人員	契 約 額
請負・委任	13,015 件	2,249 人	179,263 人	880,449,880 円

### 労働者派遣事業内訳

事業区分	派遣現場数	実人員	延人員	契 約 額
労働者派遣	55 ヶ所	173 人	13,006 人	76,578,389 円

- (1) 民間の新規就業先の開拓のため、市内の各種団体（病院・クリニック、高齢者施設、金融・教育・公的機関、指定管理者等）を中心にダイレクトメール（175 件）を送付しました。また保育関連の就業拡大のため、「学童保育クラブ施設長会議」において事業案内を行った他、発注者との関係を深める目的で、学童保育クラブ並びに老人施設を対象に「現場訪問&ふれあいコンサート」を実施（2 回）しました。

更に公共事業の受注拡大に向けては、市長訪問を始め、各課への訪問活動を実施しました。

- (2) 一般家庭等の仕事について、技能職における後継者育成や、昨年立ち上げた「暮らしサポート隊（家事援助周辺事業）」を通じ、就業の拡大並びに発注者の待ち時間の短縮を図りました。
- (3) 地域の自主的な会員活動として受注拡大を目指す「一人一紹介運動」は5班8件の協力がありました。
- (4) 施設管理希望会員に対するエントリーを2回行ない、235名のエントリー中、長期就業交代者37名を含む49名の就業が決定しました。
- (5) 法令順守等の適正就業について、国の示すガイドラインの理解を深めるため、会員には定例日研修等、発注者に対しては書類等を通じ周知を行いました。
- (6) 会員の能力に応じた就業並びに発注者に対する公平性を担保するため、植木剪定作業並びに他職種との契約について請負制度への移行を進めましたが実施には至りませんでした。

なお大型受注における地域班の展開事業は、以下のとおりでした。

	内 容	実人員
1	公園除草（春）	306人
2	ゴミ袋無料配付	399人
3	「まちだの教育特別号」全戸配布	379人
4	「ゴミ収集カレンダー」全戸配布	356人
5	公園除草（秋）	316人
6	「ちょこっと共済パンフレット」全戸配布	381人

### 3. 調査研究・相談

- (1) 就業相談について、窓口対応の他、毎月の定例相談を23回実施し、延163名の相談がありました。
- (2) 前年度未就業の会員に対し、積極的な声掛けや相談会を通じて124名が新たに就業しました。
- (3) 高齢者のデジタルデバイド解消のため、わくわくプラザ町田内において毎月「スマホ相談会」を無料で実施（23回）しました。また所謂フリーラン法の対応に向け情報伝達ツール「Smile to Smile（通称：スマスマ）」の普及拡大を図るため、未登録者並びに新入会員全員に仮パスワードを発行した他、「スマスマ登録相談会」を計22回開催しました。

- (4) シルバー事業における会員の介護予防及び介護費用の削減に対する効果を、一般高齢者と比較し分析するため、専門機関と連携したアンケートを32名に実施しました。
- (5) 感染症拡大対策を中心にリスク管理の検討をした他、三役並びに事務局職員が「災害用伝言ダイヤル」の実施訓練を行いました。

#### 4. 研修・講習

- (1) 定例日研修（マナー、安全就業、適正就業）について、新入会員を中心に計24回（356名）実施しました。なお定例日研修は、次年度より「入会時研修」に改称することとしました。
- (2) 地域班の役割やセンターの現況の認識のため、地区担当委員・地域班長研修を2回（92名）実施した他、新任地区担当委員勉強会（7名）を実施しました。
- (3) 仕事別グループについて、自発的なミーティングを奨励するとともに、グループ会議や研修を、リーダー向け20回を含む計65回（延672名）実施しました。
- (4) 人手不足分野の人材育成のため、「植木剪定座学講習会」（6名）並びに「襖・障子体験講習会」（3名）を実施しました。また市内で行われた（公財）東京しごと財団主催の体験講習「お庭のお手入れ入門講習」（10名）を、共催団体として全面的に協力をしました。
- (5) シルバー会員が地域の支え手となれるよう、「認知症サポーター養成講座」を定例日研修時に実施（24回）しました。
- (6) （公財）東京しごと財団の研修には、「ステップアップ接遇」「襖の張替え・障子の張替え」「パソコンインストラクター養成」「ステップアップ接遇（クレーム対応）」「ハウスクリーニングⅠ」「ハウスクリーニングⅡ」「ハウスクリーニングⅢ」「植木の基本と応用（剪定）」「包丁研ぎ」「植木の剪定技術アップ講習」「福祉・家事援助サービスコーディネーター」で11回（18名）会員が受講した他、役職員研修に計21回（33名）参加をしました。また第七ブロック主催の研修や他組織の講習には計21回（60名）参加をしました。
- (7) （公社）佐久シルバー人材センターが、視察研修のために来所されました。

## 5. 組織整備・活性化

- (1) 入会説明会について、定例開催の他、出張形式による職種限定（施設管理、植木剪定）説明会や女性向けの説明会を含め計 27 回行ないました。  
また、動画視聴方式を推進し、申込手続きまでの利便性を図りました。
- (2) 定例理事会、臨時理事会について、リモート会議を含め計 15 回開催した他、書類による“みなし決議”を 8 回行ない、入会承認等の規程に基づく決議事項や重要方針の決定等を行いました。
- (3) 専門委員会を毎月開催し、所掌事項の検討を行った他、役員・専門委員会委員合同会議を開催（34 人）し、情報の共有や連携の強化を図りました。またエントリー制度の定着を図るため、適正就業推進委員会を 4 回開催しました。
- (4) 会員等のデジタルデバインド関連や、昨今のデジタル技術の進歩に対応しセンターの効率的な業務運営を図るため、新たに「デジタル化推進委員会」立上げの準備をしました。
- (5) 役員・地区担当委員・地域班長合同会議を 2 回に分けて開催（96 人）し事業報告を含めたセンターの現況・課題、また今後の方針について認識を共有しました。
- (6) “地域のことは、地域で解決する”体制づくりを目指し、地域班活動をスムーズに行うため、地区担当委員と班長の合同連絡会や意見交換会を計 36 回実施しました。
- (7) 地域連絡会は、33 班で開催し、延 246 名が参加をしました。
- (8) 盆踊り文化を継承し、仲間づくり、並びに楽しみながら体力をつける場として、新たに「盆踊り」を始めました。
- (9) 入会促進並びに仲間づくりを中心とした既会員の退会抑制について、会員の福利厚生を担う「共助会」組織の協力をいただきました。
- (10) 清掃職について、割当の効率化並びに就業相談や現場巡回を行うコーディネーターを通じ、特に 1 人現場を中心とした就業会員のグループ化を進めました。
- (11) 所謂フリーランス法の趣旨に則り、会員が安心して、安定的に就業出来るよう、本来の発注者と会員の関係を明確化する「新たな契約形態（包括的な契約関係）」の実施に向けて検討を始めました。
- (12) 事務局カウンター前に「ご意見箱」を設置しました。
- (13) 中期計画策定委員会を 5 回開催し、新たに「第七次中期計画」を策定しました。 主要計画 <Ⅰ会員拡大 Ⅱ就業機会の確保と拡大 Ⅲ安全・適正就業の推進 Ⅳ組織強化>

## 6. 財政の安定化

- (1) 会報誌「銀齢だより」紙面における一般有料広告について、4社からの依頼があり、延14枠の広告掲載となりました。
- (2) リモート環境の整備を図り、在宅で会議を行うようにした他、職場内におけるリモート研修の推進、またLINEWORKS等の迅速で安価な情報伝達手段を積極的に活用し、業務の効率化と経費節減に取り組みました。
- (3) 発注者の代金支払いについて、資金回転率の向上や未収金問題の改善を図るため、場所や時間にとらわれず支払いが出来るキャッシュレス決済を新たに導入しました。
- (4) 「適格請求書等保存方式（インボイス制度）」における消費税の財政負担を、副次的効果として大幅に軽減する「新たな契約形態（包括的な契約関係）」について、令和7年度の実施に向けた検討を開始しました。
- (5) 経費削減等の自助努力と並行しながら、行政に対して公的補助の維持・増額への理解を働きかけました。

## 7. 安全管理

- (1) “安全は全てに優先する”の基本理念のもと、「安全就業基準」の周知等、組織一丸となって“ノートラブル・ノークレーム”を目指しましたが、残念ながら会員の自動車運転の誤操作による会員の死亡事故が発生した他、刈払機の飛び石等による賠償事故が多発し、保険該当事故で前年度比6件の増加となりました。

区分	令和5年度	令和4年度	増減
傷害事故	24件 (うち経路途上8件)	23件 (うち経路途上8件)	(+)1件
賠償事故	11件	6件	(+)5件
合計	35件	29件	(+)6件

尚、刈払機の飛び石による賠償事故については、石が飛びにくい刃の使用に限定する等、再発防止策を図りました。

- (2) 「安全フォーラム」を2回発行した他、自転車安全利用リーフレットの配布等、全会員や各職種グループに対し安全就業に関する情報の周知を行いました。また安全意識を高めるため、ポスター掲示や、「安全標語」並びに「ヒヤリハット体験記」の募集を行いました。
- (3) 仕事別グループの説明会や研修において、安全情報の提供を行いました。

- (4) 各現場における就業前の準備体操について、安全巡回等を通じて奨励をした他、後期高齢会員を中心にオンライン配信を含めた健康体操を実施（23回）しました。
- (5) 安全意識の向上と、事故発生時の対応に役立てる目的で、緊急連絡先入りの「安全心得カード（オレンジカード）」所持の徹底を図りました。
- (6) 熱中症予防の啓発を目的に、窓口で塩分タブレットを配布しました。
- (7) 安全就業に関連した研修は、定例日研修参加者（356名）の他、町田市と連携した「自転車安全講習会」（32名）、現役医師による感染症予防を含む健康増進イベント「元気な高齢者の習慣～年を重ねても元気に～」（21名）、「普通救命講習会」を2回（24名）、並びに職種別安全講習を計4回（植木班・延121名、刈払機使用班28名）実施しました。また派遣会員を対象に「個別健康相談会」（6名）を実施しました。  
更に、（公財）東京しごと財団や第七ブロック等が主催した研修には、「安全リーダー研修」等で計10回（14名）受講しました。
- (8) 重篤事故につながる可能性の高い植木剪定を含め、各現場への「安全巡回」を計11回（23ヶ所）実施しました。
- (9) 派遣事業における職場巡回を計12回（12ヶ所）実施しました。
- (10) 事故に関連する会員（24名）に聞き取りを行い、再発防止策の検討を行いました。

## 8. 社会奉仕活動

- (1) “ボランティアの全員参加”を目指し、地域班を中心とした社会奉仕活動の推進を図った結果、過去最高の参加があった「市内一斉美化清掃」や8つの地域ボランティアを含めて、以下の実績となりました。

区分	令和5年度	令和4年度	増減
延人数	1,570人	1,272人	298人
実人員	383人	351人	32人

- (2) “住み良い街づくり”に向けた「町田警察署」との協定を踏まえ、新たに町田警察監修の「ダメ！ダメ！ソング～盆踊り Ver」の練習を始めました。
- (3) 町田市ホームタウンチーム「FC町田ゼルビア」の試合運営の支援を行いました。
- (4) コロナ禍で休止していた「お囃子」は、練習を再開しましたが、出張ボランティアは行いませんでした。
- (5) 公益性の高いボランティア活動として、「日本赤十字社献血運動支援」を行いました。

- (6) 町田市との協定に基づく「空き家対策」の周知啓発・相談事業に協力した他、シルバー業務中の「高齢者見守り活動」を継続して実施しました。
- (7) 未来を担う子どもたちへの支援として、小学生を中心とした「昔遊び指導」や「下校時見守り」等の学校支援を行った他、山崎団地名店街において「ぐりーんハウスで遊ぼう」活動を行いました。また寄付ボランティアについて、対象を文房具類の他、日用品に拡大し、タオル、ノート、鉛筆等約 500 点を（福）町田市社会福祉協議会に寄贈しました。
- (8) 仕事別グループによるボランティア活動は、パソコン班のみでした。
- (9) ボランティア参加人員を増やすため、全会員に対してチラシ配布や、希望するボランティアの登録の促進を図りました。
- (10) 募金活動について、「赤い羽根共同募金」「歳末たすけあい・地域福祉活動募金」の他、「能登半島地震被災者支援募金」を行いました。

なお、ボランティア活動の実績は、以下のとおりでした。

	内 容	
1	地域班ボランティア（美化清掃・花壇管理） <森野・三輪町・旭町・本町田・小山田桜台・原町田・玉川学園・木曾（東・西）>	延 579 人
2	市内一斉美化清掃（74 班）	306 人
3	町田ホームタウンチーム（FC 町田ゼルビア）試合運営支援等	延 282 人
4	日本赤十字社献血運動支援	延 87 人
5	学校支援活動	延 94 人
6	職種班ボランティア（パソコン）	延 29 人
7	図師小学校下校時見守り活動	延 189 人
8	山崎団地名店街「ぐりーんハウスで遊ぼう」活動	4 人

以 上